

---

# ストーリーカー

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ストーリー

### 【コード】

N1411F

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

何だか非常に焦っています。この焦りはどこからくるの？もしかして、恋………？

一人暮らしをしている大学生の男がいた。まあ、俺のことだが俺が住んでいるのはごく普通のアパートだが、たまにおかしなことが起こった。大学から帰ってくるとカーテンの形やゴミ箱の位置などが微妙に変わっているってのはよくある話で、時には泥棒に荒らされたような状態になってたりもする。幸いにも無くなっている物は何もなかったが。

今日は誰かにつけられてる様な気もしてきて、流石に気味が悪くなってきた俺はアパートに戻ると大学の友人に携帯電話で相談してみた。

「もしかしてストーカーかな？ 警察に言うのが一番良いと思うけど、警察は実際に被害が無いと動いてくれないって聞くしなあ。どうしょ。」

すると友人は意外にも親身になってくれ  
「じゃあ大学に行ってる間ビデオカメラで部屋を撮影しておいて、もしストーカーが部屋に侵入してるのが撮れたらそのテープもって警察に行けば良いじゃん。不法侵入してるわけだからさすがに警察も動いてくれるだろ。」

と具体的な解決策を提示してくれた。

やはり持つべきは友だった。これは良い案と思った俺は早速次の日の朝、部屋にビデオカメラを設置して録画状態のまま大学へ行った。

大学から帰ってきた俺は焦った。部屋が荒らされている。

「これは期待出来る、マジにストーカー写ってるかも…」

変な期待を抱きながら荒らされている物を元に戻し、ビデオの録画を止めて再生した。

しばらくは何も写らなかった。

しかし、早送りなどを活用しながら根気よく見続けた。そしてビ

デオが夕方の時刻になると、知らない女が包丁を持って部屋に入ってきたのだ。

ビビった俺はすぐに友人に電話をかけた。

「ヤッベー、写ってる写ってる。ストーカー写ってる」

若干興奮気味に伝え、それからは録画を見ながら友人に内容を実況した。

「ゴミ箱漁ってるよあ」「今度は服の匂い嗅いでる……」

今までコイツは何回も来ていたのかと思うと、俺は背筋が凍る思いだった。

「これで警察も動いてくれるなあ」

少しホッとしてると、ビデオ画面の中の女は押し入れに入った。

「うっわ、押し入れの中入ったよ。しかもなかなか出てこない……」

友人と喋っていると、また誰かが部屋に入ってきた。

俺は息を呑んだ。

部屋に入ってきたのは俺自身だった。

ビデオの中の自分はカメラに近付き録画を止め、そこでビデオは終わっていた。

押し入れにまだ女がいる。

携帯電話を放り投げると、思い切って押し入れの扉を開けた。もうすごい勢いで開けた。

そこには、やっぱり女がいた。ビデオ越しでよくわからなかったが、実物を見ると、けっこう小さくて可愛い、女というより女の子だった。彼女はきよとした表情だった。もちろん、まだ包丁は持っている。

「君、誰？」

俺は聞いた。さっきまでいっばいだった恐怖心なんて全然なかった。

「あ、あんたを殺しにきたのよ」

「じゃあなんで殺しにきた奴の服の匂いとか嗅いでんだ？」

すると、たちまちに彼女の顔は真っ赤になった。難しい言葉使つと、頬がものすごく紅潮していた。

「み、み、みてたの？」

そいつは物凄く慌ててた。いつだったか母親にエロ本見つかった時の俺以上に。

「お前、俺の事好きなの？」

笑いながら聞いてみた。そいつは恥ずかしそうに

「な、何？ 悪い！？」

他にも何か言いたげだったが、俺はそれをとめた。とめるにしても他にやり方ありそうだが、何を血迷ったか、そいつに抱きついてた。

「は、放しなさいよ、バカ」

そんなこと言っているが、全然抵抗とかしなかった。それが可愛くて、俺はもつと強く抱きしめた。

いつの間にか、そいつの手が俺の背中に回ってた。小さい力だが、そしてそいつは幽霊だが、人間より温かかった。携帯電話から聞こえてきた友人の声を無視したのは言うまでも無い。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1411f/>

---

ストーリー

2011年1月14日03時49分発行